

## Turbolinux 8 Server 使用上の留意事項

本書は PRIMERGY に Linux をインストールしてご使用頂く時の留意事項について記載したものです。Linux をご利用の際には必ずご覧くださいますようお願い申し上げます。

本書に記載されている内容は、弊社にて動作を確認したものですが、予告なしに変更される場合もございますので、あらかじめ御了承ください。

なお、弊社では、お客様に安心して Linux をご利用していただくために、**有償サポート・サービス(SupportDesk Product 基本サービス)**をご用意しております。ご契約いただきましたお客様には、本書に関するご質問、インストールや運用の際に発生する疑問やトラブルなどについても対応させていただいておりますので、是非ご検討ください。

### 1. ご利用の前に

#### 1.1 インストールモジュール一覧について

弊社が動作確認した環境のパッケージ一覧は添付資料 “[パッケージモジュール一覧](#)” を参照してください。

#### 1.2 TX200 のオンボード LAN について

PRIMERGY TX200 のオンボード LAN において、起動時のネゴシエーションに失敗する問題が発生しています。従って、オンボード LAN ドライバをターボリナックス株式会社ホームページよりダウンロードしてシステムのインストールおよびドライバのアップデートする必要があります。

システムを新規インストールする場合は“[添付資料 TX200 用インストール作業手順について](#)”を、既存のシステムにアップデートする場合は“[添付資料 TX200 用 LAN ドライバアップデート手順](#)”をご参照ください。

### 2. インストールについて

#### 2.1 ルートパーティションの設定について

ハードディスクドライブの先頭にルートパーティション(/)を 1GB 以上設定すると 1024 シリンダを超えることがあります。

GRUB を利用してカーネルをブートする場合、カーネルが 1024 シリンダ以内にないとブートすることができません。インストーラでパーティションを設定する際、ハードディスクドライブの先頭に 256MB 程度のブートパーティション(/boot)を作成することにより問題なくブートすることができます。

## 2.2 インストール作業手順について

システムをインストールするためには、以下の作業が必要となります。

なお、インストール作業は機種別のインストール作業手順を参照してください。

[L250 の場合]

[“添付資料 L250 用インストール作業手順について”](#) を参照してください。

[TX150 の場合]

[“添付資料 TX150 用インストール作業手順について”](#) を参照してください。

[L100E/RX100 の場合]

[“添付資料 L100E/RX100 用インストール作業手順について”](#) を参照してください。

[TX200 の場合]

[“添付資料 TX200 用インストール作業手順について”](#) を参照してください。

## 3. 運用時の留意事項

### 3.1 起動時に選択できるカーネルについて

出荷時の状態は、インストールされた機種の CPU とメモリの最大構成で動作可能なカーネルが起動するように設定されています。

### 3.2 起動カーネルの変更について

出荷時の状態は、“[3.1 起動時に選択できるカーネルについて](#)”で掲載したとあります。

起動用のカーネルを変更する場合は、ブートローダ(GRUB)の起動メニューを変更して、ハード条件にあったカーネルを使用するように設定してください。ハード条件と選択カーネルについては、以下を参照してください。

起動メニューの変更は、ブートローダ(GRUB)のマニュアルにしたがって実施してください。

ハード条件	選択カーネル
論理 CPU が 1 個 かつ、 搭載メモリが 4GB 以内の場合	標準カーネル
論理 CPU が 2 個以上 かつ、 搭載メモリが 4GB 以内の場合	SMP カーネル
論理 CPU の数に関係なく、 搭載メモリが 4GB を超えている場合	SMP カーネル (64G メモリー対応)

実搭載 CPU1 個でも、Hyper Threading = Enable で論理 CPU が 2 個に見える場合は、こちらを選択してください。

### 3.3 パッケージインストールについて

Turbolinux は使用目的に応じて最適なシステムを構築するためインストールタイプが用意されています。このため、インストールタイプによってはお客様の必要とするパッケージがインストールされない場合があります。必要とするパッケージがインストールされていない場合、以下の手順でインストールしてください。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cd /mnt/cdrom/turbo/RPMS
# rpm -ivh <package_file>
```

例) make のパッケージをインストールする場合

```
# rpm -ivh make-3.79.1-7.i586.rpm
```

### 3.4 シャットダウン時の電源切断について

(標準カーネルの場合\*1)

シャットダウン時自動的に電源が切断されます。

(SMP カーネルの場合\*1)

シャットダウン時自動的に電源が切断されません。

コンソール画面に「Power down.」と表示されてから、電源スイッチを押して電源を切断してください。

\*1 標準カーネルおよび SMP カーネルについては、[“3.2 起動カーネルの変更について”](#)を参照してください。

### 3.5 IDE-RAID 管理ツールについて

・ IDE-RAID 管理ツールとして以下のパッケージがあります。

- FastCheck ユーティリティ
- FastTrak SMNP エージェント

・ FastCheck ユーティリティのインストール方法

[弊社のホームページ](#)から他マシンでドライバキットをダウンロードして展開します。

例としてドライバキットを /var/tmp/TL8S に展開した場合を説明します。

[インストール方法]

(1) コマンドをコピーします(ここでは、usr/local/bin 配下にコマンドを置く例で説明します)。

```
# cd /var/tmp/TL8S/INSTALL_KIT
# rpm -ivh ftsnmpd-1.31.0063.1-1.i586.rpm
# cp /var/tmp/fastcheck /usr/local/bin/
# chmod 555 /usr/local/bin/ fastcheck
```

(2) システムを再起動します。

```
# shutdown -r now
```

[起動方法]

X Window System を起動し、ターミナルからコマンドを起動します。

```
# /usr/local/bin/fastcheck &
```

### 3.6 StorageManager のインストール方法

SCSI-RAID 構成でシステムを使用する場合、RAID 管理ツールとして、StorageManager を使用してください。StorageManager のパッケージは、Turbolinux 8 Server の「Companion CD」で提供されています。以下の操作を行ってください。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cd /mnt/cdrom/turbo/RPMS
# rpm -ivh dptapps-3.23.2.i386.rpm
# cd /
# umount /mnt/cdrom
# eject
```

Companion CD1 を取り出してください。

## 4. 周辺装置・カード増設時について

### 4.1 SCSI カード(PG-128/ PG-130L)の増設について

システムをインストールした後、SCSI カードを増設すると、増設した SCSI カードが認識されない場合があります。認識されない場合は、root でログインした後、以下の手順で設定を行ってください。次回のシステム再起動時から SCSI カードが自動的に認識されるようになります。

(1) /etc/modules.conf に以下の行を追加します。

[PG-128/PG-130L 増設時]

```
alias scsi_hostadapter aic7xxx
```

すでに scsi\_hostadapter がある場合には、最後に「1,2,...」と数字をつけてください。

(2) ご使用のカーネルに合わせて、cp コマンドによりバックアップを作成します。

ご使用のカーネルを確認する場合は、以下のコマンドを実施します。

```
# uname -r
```

- 2.4.18-8smp64G の場合

```
# cp /boot/initrd-2.4.18-8smp64G /boot/initrd-2.4.18-8smp64G.bak
```

- 2.4.18-8smp の場合

```
# cp /boot/initrd-2.4.18-8smp /boot/initrd-2.4.18-8smp.bak
```

- 2.4.18-8 の場合

```
# cp /boot/initrd-ft.img /boot/initrd-ft.img.bak
```

(3) ご使用のカーネルに合わせて、mkinitrd コマンドにより initrd を作成します。

- 2.4.18-8smp64G の場合

```
# mkinitrd -f /boot/initrd-2.4.18-8smp64G 2.4.18-8smp64G
```

- 2.4.18-8smp の場合

```
# mkinitrd -f /boot/initrd-2.4.18-8smp 2.4.18-8smp
```

- 2.4.18-8 の場合

```
# mkinitrd -f /boot/initrd-ft.img 2.4.18-8 2.4.18-8
```

(4) システムを再起動します。

```
# shutdown -r now
```

#### 4.2 RAID カード(PG-142B/PG-142C)の増設について

システムをインストールした後、RAID カードを増設すると、増設した RAID カードが認識されない場合があります。認識されない場合は、root でログインした後、以下の手順で設定を行ってください。

次回のシステム再起動時から RAID カードが自動的に認識されるようになります。

(1) /etc/modules.conf に以下の行を追加します。

```
alias scsi_hostadapter dpt_i2o
```

すでに scsi\_hostadapter がある場合には、最後に「1,2,...」と数字をつけてください。

(2) バックアップを作成します。

```
# cp /boot/initrd-2.4.18-8smp64G /boot/initrd-2.4.18-8smp64G.bak
```

(3) mkinitrd コマンドにより initrd を作成します。

```
# mkinitrd -f /boot/initrd-2.4.18-8smp64G 2.4.18-8smp64G
```

(4) システムを再起動します。

```
# shutdown -r now
```

#### 4.3 LAN カード増設時の LAN カード認識について

システムをインストールした後、LAN カードを増設すると、LAN カードが認識されない場合があります。認識されない場合は、root でログインした後、以下の手順で設定を行ってください。

次回のシステム再起動時から LAN カードが自動的に認識されるようになります。

LAN カードの増設を行った場合、オンボード LAN のネットワークインターフェース名が eth0 から eth1 あるいは eth2,3... に変更となる場合があります。

この場合、turbonetcfg を利用して再度ネットワークの設定を行ってください。

(1) turbonetcfg でネットワーク設定を行ってください。

(2) /etc/modules.conf に以下の行を追加します。

- PG-1851 または PG-1871L を増設した場合

```
alias ethN e100 (N は設定したネットワークデバイス番号)
```

- PG-1881/PG-1891/PG-1891L または PG-1881L を増設した場合

```
alias ethN e1000 (N は設定したネットワークデバイス番号)
```

(3) ご使用のカーネルに合わせて、cp コマンドによりバックアップを作成します。

ご使用のカーネルを確認する場合は、以下のコマンドを実施します。

```
# uname -r
```

- 2.4.18-8smp64G の場合

```
# cp /boot/initrd-2.4.18-8smp64G /boot/initrd-2.4.18-8smp64G.bak
```

- 2.4.18-8smp の場合

```
# cp /boot/initrd-2.4.18-8smp /boot/initrd-2.4.18-8smp.bak
```

- 2.4.18-8 の場合

```
# cp /boot/initrd-ft.img /boot/initrd-ft.img.bak
```

(4) ご使用のカーネルに合わせて、mkinitrd コマンドにより initrd を作成します。

- 2.4.18-8smp64G の場合

```
# mkinitrd -f /boot/initrd-2.4.18-8smp64G 2.4.18-8smp64G
```

- 2.4.18-8smp の場合

```
# mkinitrd -f /boot/initrd-2.4.18-8smp 2.4.18-8smp
```

- 2.4.18-8 の場合

```
# mkinitrd -f /boot/initrd-ft.img 2.4.18-8 2.4.18-8
```

(5) システムを再起動します。

```
# shutdown -r now
```

#### 4.4 カラー液晶ディスプレイ(VL-151VA)での日本語表示について

カラー液晶ディスプレイ(VL-151VA)を使用し、コンソール画面上で kon コマンドを実行した場合、ディスプレイ装置のサポート外の周波数で表示が行われるため、「UNSUPPORTED MODE SEE USER'S MANUAL」という警告メッセージがディスプレイ装置より表示されます。

正常な周波数での表示を行うには kon コマンドの設定ファイルを修正する必要があります。

(1)/etc/kon.cfg ファイルを次のように修正します。

“VGA:Normal”の記述を基準として、次のふたつを変更してください。

- 4 行目の値を “1” から “0”

- 5 行目の値を “29” から “30”

[修正前]

```
VGA:Normal
```

```
VGA
```

```
640 680 768 800 480 491 493 525
```

```
1
```

```
79 29
```

[修正後]

VGA:Normal

VGA

640 680 768 800 480 491 493 525

0

79 30

(2) kon コマンドを実行します。

# /usr/bin/kon

#### 4.5 1U フラットディスプレイ(PG-R1DP2)での日本語表示について

正常な周波数での表示を行うには kon コマンドの設定ファイルを修正する必要があります。

(1) /etc/kon.cfg ファイルを次のように修正します。

“VGA:Normal” の記述を基準として、4 行目の値を “1” から “0” に変更してください。

[修正前]

VGA:Normal

VGA

640 680 768 800 480 491 493 525

1

79 29

[修正後]

VGA:Normal

VGA

640 680 768 800 480 491 493 525

0

79 29

(2) kon コマンドを実行します。

# /usr/bin/kon

#### 4.6 無停電電源装置(NetpowerProtect シリーズ) を利用する場合について

Turbolinux 8 Server 用 UPS 管理ソフトウェア NetpowerView F は、弊社ホームページの

[FMWORLD.NET - PRIMERGY - サポート&サービス - ダウンロード](http://FMWORLD.NET - PRIMERGY - サポート&サービス - ダウンロード)からダウンロード

してください。

無停電電源装置を利用する場合は、以下のように無停電電源装置から電源の投入が行えるように設定する必要があります。

- (1) BIOS のセットアップユーティリティを起動します。セットアップユーティリティは、<F2>キーで起動できます。
- (2) セットアップユーティリティの[Power Management]メニュー - [Restart on AC/Power Failure]において、[Always Power On]を設定します。
- (3) セットアップユーティリティを終了します。

## 5. その他

### 5.1 サウンド機能について

サウンド機能はサポートしていません。

### 5.2 USB について

USB はサポートしていません。

### 5.3 PCI ホットプラグ機能について

PCI ホットプラグ機能はサポートしていません。

### 5.4 Hyper Threading 機能について

[TX150/RX100/TX200 の場合]

Hyper Threading 機能を使用することができます。

TX150/RX100 については CPU3.06GHz の構成でのみ使用できます。

[その他の場合]

Hyper Threading は “Disabled” の状態でご使用願います。

設定内容は、BIOS のメニューを以下のように切替えて確認できます。

Advanced => Advanced System Configuration => Hyper-Threading

- 以上 -

## 添付資料 L250 用インストール作業手順について

### 1 インストール作業手順概要

手順	作業概要
1	ドライバディスクの作成 (“ <a href="#">2</a> “参照)“
2	ドライバの組み込み (“ <a href="#">3</a> “参照)“
3	システムのインストール (“ <a href="#">4</a> “参照)“
4	システム再起動
5	カーネルアップデート (“ <a href="#">5</a> “参照)“
6	システム再起動

### 2 ドライバディスクの作成

インストール時に使用するドライバディスクの作成は不要です。

### 3 ドライバの組み込み

以下の手順でドライバの組み込みをしてください。

順序	
1	システムインストール先デバイスで使用するドライバ選択 (“ <a href="#">3.1</a> “参照)“
2	システムインストール先以外の SCSI ドライバの選択 (“ <a href="#">3.2</a> “参照)“
3	LAN ドライバの選択 (“ <a href="#">3.3</a> “参照)“
4	システムのインストールについてへ

#### 3.1 システムインストール先デバイスドライバ選択

以下の操作を行ってください。

(1) インストール CD から起動し、以下のように入力してインストールを開始します。

boot: install noprobe

(2) Choose a Language 画面で「Japanese」を選択し「OK」を選択します。

(3) デバイス画面で「デバイスの追加」を選択します。

(4) 「追加するデバイスを選択して下さい。」で「SCSI」を選択し「OK」を選択します。

(5) ドライバー一覧が表示されるので、システムをインストールするデバイスで使用するドライバを選択し「OK」を選択します。選択するドライバは下表を参考にしてください。

システムインストール先	選択するドライバ
オンボード SCSI	Adaptec AHA-2740, 28xx, 29xx, 39xx (aic7xxx)
RAID カード(PG-140BL)	Adaptec I2O RAID (dpt_i2o)

(6) デバイス画面が表示されるので、「デバイスの追加」を選択します。

### 3.2 システムインストール先以外の SCSI ドライバ選択

システムインストール先以外のデバイスを使用する場合は以下の操作を行ってください。システムインストール先以外のデバイスを使用しない場合は、「[3.3 LAN ドライバの選択](#)」の操作を行ってください。

- (1) ドライバー一覧が表示されるので、使用するデバイスのドライバを選択し「OK」を選択します。選択するドライバは下表を参考にしてください。

使用デバイス	選択するドライバ
オンボード SCSI	Adaptec AHA-2740, 28xx, 29xx, 39xx (aic7xxx)
RAID カード(PG-142B)	Adaptec I2O RAID (dpt_i2o)
SCSI カード(PG-128)	Adaptec AHA-2740, 28xx, 29xx, 39xx (aic7xxx)

- (2) デバイス画面が表示されるので、「デバイスの追加」を選択します。

### 3.3 LAN ドライバの選択

以下の操作を行ってください。

- (1) 「追加するデバイスを選択して下さい。」で「ネットワーク」を選択し、「OK」を選択します。
- (2) ドライバー一覧が表示されるので、以下のオンボード LAN 用ドライバを選択し「OK」を選択します。

機種	使用ドライバ
L250	Intel EtherExpress/1000 gigabit(e1000)

LAN カードが搭載されている場合は、その LAN カードのドライバも選択してください。

LAN カード	使用ドライバ
PG-1851	Intel Pro/100 10/100 Mbit Ethernet Driver (e100)
PG-1881	オンボード LAN で組み込み済みなので不要です。
PG-1891	

- (3) デバイス画面が表示されるので、「終了」を選択します。

## 4 システムのインストールについて

インストールを行う場合には、添付資料“[Turbolinux 8 Server インストール手順](#)”を参考に実施してください。資料では、PRIMERGY に弊社が動作確認を実施した環境と同じパッケージをインストールする方法を示しています。

## 5 カーネルのアップデートについて

再起動完了後、カーネルのアップデートが必要となります。以下の手順でカーネルをアップデートしてください。

アップデートファイルは、ターボリナックス株式会社の Web ページ(以下の FTP サイト)からダウンロードして入手してください。

[FTP サイト]

ftp://ftp.turbolinux.co.jp/pub/TurboLinux/TurboLinux/ia32/Server/8/updates/Vender/Fujitsu/RPMS/

以下の手順は、CD-ROM にアップデートファイルを格納した場合の操作を記述します。

(1) アップデートファイルの格納された CD-ROM をセットしてください。

```
# mount /dev/cdrom
```

(2) 以下の操作によりカーネルをインストールしてください。

```
# cd /mnt/cdrom
# rpm -Fvh kernel-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-BOOT-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-doc-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-headers-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-pcmcia-cs-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-smp-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-smp64G-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-source-2.4.18-8.i586.rpm
```

“¥”は継続行を意味します。入力は不要です。

(3) CD-ROM を取り出します。

```
# cd /
# umount /dev/cdrom
# eject
```

(4) システムを再起動します。

```
# shutdown -r now
```

## 添付資料 TX150 用インストール作業手順について

### 1 インストール作業手順概要

手順	作業概要	
1	ドライバディスクの作成	(“ <a href="#">2</a> “参照)
2	ドライバの組み込み	(“ <a href="#">3</a> “参照)
3	システムのインストール	(“ <a href="#">4</a> “参照)
4	システム再起動	
5	カーネルアップデート	(“ <a href="#">5</a> “参照)
6	環境設定	(“ <a href="#">6</a> “参照)
7	システム再起動	

### 2 ドライバディスクの作成

インストール時に使用するドライバディスクを作成します。以下の表にしたがって、必要なデバイスのドライバディスクを作成してください。

作成したドライバディスクにはドライバディスク名を記入してください。

機種	対応するデバイス	ドライバディスク作成の要(○)/不要(×)
TX150	IDE-RAID カード	○
	オンボード SCSI	×
	オンボード LAN	×
	SCSI-RAID カード (PG-140C)	×
	SCSI カード (PG-129B)	×
	SCSI カード (PG-128)	×
	LAN カード (PG-1851/PG-1891)	×

Windows または DOS 環境でドライバディスクを作成するためのツール(rawrite.exe / rawwriteln.exe)は、Turbolinux 8 Sever のインストールCD1に収録されています。以降の例では、rawrite.exe または、rawwriteln.exe を C ドライブにコピー後使用しています。  
(Windows XP でツールを使用する場合は、rawwriteln.exe の使用をお薦めいたします。)

## 2.1 FastTrak ドライバディスク作成

ドライバディスクを使用して、IDE-RAID ドライバの手動での組み込みが必要となります。

IDE-RAID ドライバディスクの作成方法は以下の通りです。

[弊社ホームページ](#)から他マシンでドライバキットをダウンロードして展開します。

展開したドライバディスクイメージとフォーマット済みのフロッピィディスクを用意し、以下のコマンドを実行します。

### - Linux システムでの作成方法

例として展開したドライバディスクイメージを /var/tmp/TL8 に格納した場合を説明します。

フォーマット済みのフロッピィディスクをフロッピィディスクドライブにセットし、以下のコマンドを実行します。

```
# dd if=/var/tmp/TL8/ft.img of=/dev/fd0 bs=1440k count=1
```

### - Windows または DOS での作成方法

例として展開したドライバディスクイメージを c:¥TL8 に格納した場合を説明します。

```
C:>rawrite -f c:¥TL8¥ft.img -d a
```

例として展開したドライバディスクイメージファイルを c:¥TL8 に格納した場合の手順を示します。フォーマット済みのフロッピィディスクをフロッピィディスクドライブにセットし、以下のコマンドを実行します。

[ rawrite の場合]

```
C> rawrite -f c:¥TL8¥ft.img -d a
```

[ rawritewin の場合]

```
C> rawritewin
```

GUI が表示されるので、c:¥TL8¥ft.img を選択し、"Write" ボタンをクリックします。

"Image successfully written." が表示されれば終了です。

フロッピィディスクを取り出してください。

## 3 ドライバの組み込み

以下の手順でドライバの組み込みをしてください。

順序	
1	システムインストール先デバイスで使用するドライバ選択（ <a href="#">“3.1”参照</a> ）
2	システムインストール先以外の SCSI ドライバの選択（ <a href="#">“3.2”参照</a> ）
3	LAN ドライバの選択（ <a href="#">“3.3”参照</a> ）
4	システムのインストールについてへ

### 3.1 システムインストール先デバイスドライバ選択

以下の操作を行ってください。

(1) インストール CD から起動し、以下のように入力してインストールを開始します。

[SCSI/IDE タイプの場合]

```
boot: install noprobe
```

[IDE-RAID タイプの場合]

```
boot:install dd noprobe ide0=0x1f0,0x3f6,14 ide1=0x170,0x376,15 ide2=0 ide3=0 ide4=0 ¥
ide5=0 ide6=0 ide7=0 ide8=0 ide9=0
```

SCSI/IDE タイプの場合は(4)以降から実施してください。

(2) 以下のメッセージが表示されるので、「Yes」を選択します。

Do you have a driver disk ?

(3) 以下のメッセージが表示されるので、「[2.1](#)」で作成したドライバディスクをフロッピィディスクドライブに挿入し「OK」を選択します。

Insert your driver disk and  
press "OK" to continue.

(4) Choose a Language 画面で「Japanese」を選択し「OK」を選択します。

(5) デバイス画面で「デバイスの追加」を選択します。

IDE タイプの場合は、「[3.2 システムインストール先以外の SCSI ドライバ選択](#)」から実施してください。

(6) 「追加するデバイスを選択して下さい。」で「SCSI」を選択し「OK」を選択します。

(7) ドライバー一覧が表示されるので、システムをインストールするデバイスで使用するドライバを選択し「OK」を選択します。選択するドライバは下表を参考にしてください。

システムインストール先	選択するドライバ
オンボード SCSI	Adaptec AHA-2740, 28xx, 29xx, 39xx (aic79xx)
IDE-RAID	Promise FastTrak ATA-RAID controller (FastTrak)
RAID カード(PG-140C)	Adaptec I2O RAID (dpt_i2o)

(8) デバイス画面が表示されるので、「デバイスの追加」を選択します。

### 3.2 システムインストール先以外の SCSI ドライバ選択

システムインストール先以外のデバイスを使用する場合は以下の操作を行ってください。システムインストール先以外のデバイスを使用しない場合は、「[3.3 LAN ドライバの選択](#)」の操作を行ってください。

(1) ドライバー一覧が表示されるので、使用するデバイスのドライバを選択し「OK」を選択します。選択するドライバは下表を参考にしてください。

使用デバイス	選択するドライバ
オンボード SCSI	Adaptec AIC79xx Ultla320 adapter (aic79xx)
SCSI カード(PG-128)	Adaptec AHA-2740, 28xx, 29xx, 39xx (aic7xxx)

(2) デバイス画面が表示されるので、「デバイスの追加」を選択します。

### 3.3 LAN ドライバの選択

以下の操作を行ってください。

- (1) 「追加するデバイスを選択して下さい。」で「ネットワーク」を選択し、「OK」を選択します。
- (2) ドライバー一覧が表示されるので、以下のオンボード LAN 用ドライバを選択し「OK」を選択します。

機種	使用ドライバ
TX150	Intel EtherExpress/1000 gigabit(e1000)

LAN カードが搭載されている場合は、その LAN カードのドライバも選択してください。

LAN カード	使用ドライバ
PG-1851	Intel Pro/100 10/100 Mbit Ethernet Driver (e100)
PG-1891	オンボード LAN で組み込み済みなので不要です。

- (3) デバイス画面が表示されるので、「終了」を選択します。

### 4 システムのインストールについて

インストールを行う場合には、添付資料“[Turbolinux 8 Server インストール手順](#)”を参考に実施してください。資料では、PRIMERGY に弊社が動作確認を実施した環境と同じパッケージをインストールする方法を示しています。

### 5 カーネルのアップデートについて

再起動完了後、カーネルのアップデートが必要となります。以下の手順でカーネルをアップデートしてください。

アップデートファイルは、ターボリナックス株式会社の Web ページ(以下の FTP サイト)からダウンロードして入手してください。

[FTP サイト]

<ftp://ftp.turbolinux.co.jp/pub/TurboLinux/TurboLinux/ia32/Server/8/updates/Vender/Fujitsu/RPMS/>

以下の手順は、CD-ROM にアップデートファイルを格納した場合の操作を記述します。

- (1) 古いドライバを削除してください。  
この手順は IDE-RAID タイプの場合のみ実施してください。

```
# rm /lib/modules/2.4.18-5/kernel/drivers/scsi/FastTrak.o
```

- (2) アップデートファイルの格納された CD-ROM をセットしてください。  

```
# mount /dev/cdrom
```

(3) 以下の操作によりカーネルをインストールしてください。

```
# cd /mnt/cdrom
# rpm -Fvh kernel-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-BOOT-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-doc-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-headers-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-pcmcia-cs-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-smp-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-smp64G-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-source-2.4.18-8.i586.rpm
```

“¥”は継続行を意味します。入力は不要です。

IDE-RAID タイプの場合、kernel-2.4.18-8.i586.rpm をインストールした直後に以下のメッセージが表示されますが、特に問題はありません。

```
No module FastTrak found for kernel 2.4.18-8
```

(4) CD-ROM を取り出します。

```
# cd /
# umount /dev/cdrom
# eject
```

IDE-RAID タイプの場合は、(5)の操作はせずに “[6](#)” の環境設定を実施してください。

(5) システムを再起動します。

```
# shutdown -r now
```

## 6 環境設定

カーネルアップ後、以下の手順で環境設定をしてください。

“[2.1](#)” で作成したドライバディスクをフロッピィディスクドライブに挿入してください。

```
# mount /dev/fd0 /mnt/floppy
# cd /mnt/floppy
# ./setup-ft
# cd
# umount /mnt/floppy
  ドライバディスクを取り出してください。
# gilo
# shutdown -r now
```

## 添付資料 L100E/RX100 用インストール作業手順について

### 1 インストール作業手順概要

手順	作業概要
1	ドライバディスクの作成 ( <a href="#">“2”参照</a> )
2	ドライバの組み込み ( <a href="#">“3”参照</a> )
3	システムのインストール ( <a href="#">“4”参照</a> )
4	システム再起動
5	カーネルアップデート ( <a href="#">“5”参照</a> )
6	環境設定 ( <a href="#">“6”参照</a> )
7	システム再起動

### 2 ドライバディスクの作成

インストール時に使用するドライバディスクを作成します。以下の表にしたがって、必要なデバイスのドライバディスクを作成してください。

作成したドライバディスクにはドライバディスク名を記入してください。

機種	対応するデバイス	ドライバディスク作成の要(○)/不要(×)
RX100/ L100E	オンボード IDE-RAID	○
	オンボード LAN	×
	SCSI カード (PG-130L)	×
	LAN カード (PG-1871L/ PG-1881L/PG-1891L)	×

Windows または DOS 環境でドライバディスクを作成するためのツール(rawrite.exe / rawwritewin.exe)は、Turbolinux 8 Sever のインストールCD1 に収録されています。以降の例では、rawrite.exe または、rawwritewin.exe を C ドライブにコピー後使用しています。  
(Windows XP でツールを使用する場合は、rawwritewin.exe の使用をお薦めいたします。)

## 2.1 FastTrak ドライバディスク作成

ドライバディスクを使用して、IDE-RAID ドライバの手動での組み込みが必要となります。

IDE-RAID ドライバディスクの作成方法は以下の通りです。

[弊社ホームページ](#)から他マシンでドライバキットをダウンロードして展開します。

展開したドライバディスクイメージとフォーマット済みのフロッピィディスクを用意し、以下のコマンドを実行します。

### - Linux システムでの作成方法

例として展開したドライバディスクイメージを /var/tmp/TL8 に格納した場合を説明します。

フォーマット済みのフロッピィディスクをフロッピィディスクドライブにセットし、以下のコマンドを実行します。

```
# dd if=/var/tmp/TL8/ft.img of=/dev/fd0 bs=1440k count=1
```

### - Windows または DOS での作成方法

例として展開したドライバディスクイメージを c:¥TL8 に格納した場合を説明します。

```
C:>rawrite -f c:¥TL8¥ft.img -d a
```

例として展開したドライバディスクイメージファイルを c:¥TL8 に格納した場合の手順を示します。フォーマット済みのフロッピィディスクをフロッピィディスクドライブにセットし、以下のコマンドを実行します。

[ rawrite の場合]

```
C> rawrite -f c:¥TL8¥ft.img -d a
```

[ rawrwritein の場合]

```
C> rawrwritein
```

GUI が表示されるので、c:¥TL8¥ft.img を選択し、"Write" ボタンをクリックします。

"Image successfully written." が表示されれば終了です。

フロッピィディスクを取り出してください。

## 3 ドライバの組み込み

以下の手順でドライバの組み込みをしてください。

順序	
1	システムインストール先デバイスで使用するドライバ選択（ <a href="#">“3.1”参照</a> ）
2	システムインストール先以外の SCSI ドライバの選択（ <a href="#">“3.2”参照</a> ）
3	LAN ドライバの選択（ <a href="#">“3.3”参照</a> ）
4	システムのインストールについてへ

### 3.1 システムインストール先デバイスドライバ選択

以下の操作を行ってください。

(1) インストール CD から起動し、以下のように入力してインストールを開始します。

```
boot:install dd noprobe ide0=0x1f0,0x3f6,14 ide1=0x170,0x376,15 ide2=0 ide3=0 ide4=0 ¥
ide5=0 ide6=0 ide7=0 ide8=0 ide9=0
```

SCSI/IDE タイプの場合は(4)以降から実施してください。

- (2) 以下のメッセージが表示されるので、「Yes」を選択します。

Do you have a driver disk ?

- (3) 以下のメッセージが表示されるので、“[2.1](#)”で作成したドライバディスクをフロッピィディスクドライブに挿入し「OK」を選択します。

Insert your driver disk and  
press “OK” to continue.

- (4) Choose a Language 画面で「Japanese」を選択し「OK」を選択します。

- (5) デバイス画面で「デバイスの追加」を選択します。

- (6) 「追加するデバイスを選択して下さい。」で「SCSI」を選択し「OK」を選択します。

- (7) ドライバー一覧が表示されるので、システムをインストールするデバイスで使用するドライバを選択し「OK」を選択します。選択するドライバは下表を参考にしてください。

使用デバイス	選択するドライバ
IDE-RAID	Promise FastTrak ATA-RAID controller (FastTrak)

- (8) デバイス画面が表示されるので、「デバイスの追加」を選択します。

### 3.2 システムインストール先以外の SCSI ドライバ選択

システムインストール先以外のデバイスを使用する場合は以下の操作を行ってください。システムインストール先以外のデバイスを使用しない場合は、「[3.3 LAN のドライバ選択](#)」の操作を行ってください。

- (1) ドライバー一覧が表示されるので、使用するデバイスのドライバを選択し「OK」を選択します。選択するドライバは下表を参考にしてください。

使用デバイス	選択するドライバ
SCSI カード(PG-130L)	Adaptec AHA-2740, 28xx, 29xx, 39xx (aic7xxx)

- (2) デバイス画面が表示されるので、「デバイスの追加」を選択します。

### 3.3 LAN ドライバの選択

以下の操作を行ってください。

- (1) 「追加するデバイスを選択して下さい。」で「ネットワーク」を選択し、「OK」を選択します。
- (2) ドライバー一覧が表示されるので、以下のオンボード LAN 用ドライバを選択し「OK」を選択します。

機種	使用ドライバ
L100E/RX100	Intel Pro/100 10/100 Mbit Ethernet Driver (e100)
	Intel EtherExpress/1000 gigabit(e1000)

LAN カードが搭載されている場合は、その LAN カードのドライバも選択してください。

LAN カード	使用ドライバ
PG-1871L	
PG-1881L	
PG-1891L	オンボード LAN で組み込み済みなので不要です。

- (3) デバイス画面が表示されるので、「終了」を選択します。

#### 4 システムのインストールについて

インストールを行う場合には、添付資料“[TurboLinux 8 Server インストール手順](#)”を参考に実施してください。資料では、PRIMERGY に弊社が動作確認を実施した環境と同じパッケージをインストールする方法を示しています。

#### 5 カーネルのアップデートについて

再起動完了後、カーネルのアップデートが必要となります。以下の手順でカーネルをアップデートしてください。

アップデートファイルは、ターボリナックス株式会社の Web ページ(以下の FTP サイト)からダウンロードして入手してください。

[FTP サイト]

ftp://ftp.turbolinux.co.jp/pub/TurboLinux/TurboLinux/ia32/Server/8/updates/Vender/Fujitsu/RPMS/

以下の手順は、CD-ROM にアップデートファイルを格納した場合の操作を記述します。

- (1) 古いドライバを削除してください。

```
# rm /lib/modules/2.4.18-5/kernel/drivers/scsi/FastTrak.o
```

- (2) アップデートファイルの格納された CD-ROM をセットしてください。

```
# mount /dev/cdrom
```

(3) 以下の操作によりカーネルをインストールしてください。

```
# cd /mnt/cdrom
# rpm -Fvh kernel-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-BOOT-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-doc-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-headers-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-pcmcia-cs-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-smp-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-smp64G-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-source-2.4.18-8.i586.rpm
```

“\”は継続行を意味します。入力は不要です。

kernel-2.4.18-8.i586.rpm をインストールした直後に以下のメッセージが表示されます  
が、特に問題はありません。

```
No module FastTrak found for kernel 2.4.18-8
```

(4) CD-ROMを取り出します。

```
# cd /
# umount /dev/cdrom
# eject
```

## 6 環境設定

カーネルアップ後、以下の手順で環境設定をしてください。

“[2.1](#)”で作成したドライバディスクをフロッピィディスクドライブに挿入してください。

```
# mount /dev/fd0 /mnt/floppy
# cd /mnt/floppy
# ./setup-ft
# cd
# umount /mnt/floppy
  ドライバディスクを取り出してください。
# gilo
# shutdown -r now
```

## 添付資料 TX200 用インストール作業手順について

### 1 インストール作業手順概要

手順	作業概要
1	ドライバディスクの作成 ( <a href="#">“2”参照</a> )
2	ドライバの組み込み ( <a href="#">“3”参照</a> )
3	システムのインストール ( <a href="#">“4”参照</a> )
4	システム再起動
5	カーネルアップデート ( <a href="#">“5”参照</a> )
6	環境設定 ( <a href="#">“6”参照</a> )
7	システム再起動

### 2 ドライバディスクの作成

インストール時に使用するドライバディスクを作成します。以下の表にしたがって、必要なデバイスのドライバディスクを作成してください。

作成したドライバディスクにはドライバディスク名を記入してください。

機種	対応するデバイス	ドライバディスク作成の要(○)/不要(×)
TX200	オンボード SCSI	
	オンボード LAN	
	SCSI カード (PG-128)	×
	SCSI-RAID カード (PG-140C/PG-142C)	×
	LAN カード (PG-1851/PG-1871 /PG-1881/PG-1891)	×

Windows または DOS 環境でドライバディスクを作成するためのツール(rawrite.exe / rawwritewin.exe)は、Turbolinux 8 Sever のインストール CD1 に収録されています。以降の例では、rawrite.exe または、rawwritewin.exe を C ドライブにコピー後使用しています。

(Windows XP でツールを使用する場合は、rawwritewin.exe の使用をお薦めいたします。)

## 2.1 オンボード SCSI ドライバディスク作成

ドライバディスクを使用して、オンボード SCSI ドライバの手動での組み込みが必要となります。

オンボード SCSI ドライバディスクの作成方法は以下の通りです。

ターボリナックス株式会社ホームページのベンダーマシン専用アップデート(富士通)より他マシンでドライバディスクのイメージファイルをダウンロードします。ドライバディスクイメージとフォーマット済みのフロッピィディスクを用意し、以下のコマンドを実行します。

[FTP サイト]

<ftp://ftp.turbolinux.co.jp/pub/TurboLinux/TurboLinux/ia32/Server/8/updates/Vender/Fujitsu/images/dd/>

[イメージファイル名]

dd030424-aic79xx.img

- Linux システムでの作成方法

例としてドライバディスクイメージを /var/tmp/TL8 に格納した場合を説明します。フォーマット済みのフロッピィディスクをフロッピィディスクドライブにセットし、以下のコマンドを実行します。

```
# dd if=/var/tmp/TL8/dd030424-aic79xx.img of=/dev/fd0 bs=1440k count=1
```

- Windows または DOS での作成方法

インストール CD の dosutils ディレクトリに収録されている rawrite または rawwritewin プログラムを使用します。

例として展開したドライバディスクイメージファイルを c:¥TL8 に格納した場合の手順を示します。フォーマット済みのフロッピィディスクをフロッピィディスクドライブにセットし、以下のコマンドを実行します。

[ rawrite の場合]

```
C> rawrite -f c:¥TL8¥ dd030424-aic79xx.img -d a
```

[ rawwritewin の場合]

```
C> rawwritewin
```

GUI が表示されるので、c:¥TL8¥dd030424-aic79xx.img を選択し、"Write" ボタンをクリックします。

"Image successfully written." が表示されれば終了です。

フロッピィディスクを取り出してください。

## 2.2 オンボード LAN ドライバディスク作成

ドライバディスクを使用して、オンボード LAN ドライバのアップデートが必要となります。

オンボード LAN ドライバディスクの作成方法は以下の通りです。

ターボリナックス株式会社ホームページのベンダーマシン専用アップデート(富士通)より他のマシンでドライバディスクのイメージファイルをダウンロードします。ドライバディスクイメージとフォーマット済みのフロッピィディスクを用意し、以下のコマンドを実行します。

[FTP サイト]

<ftp://ftp.turbolinux.co.jp/pub/TurboLinux/TurboLinux/ia32/Server/8/updates/Vender/Fujitsu/images/dd/>

[イメージファイル名]

dd031201.img

- Linux システムでの作成方法

例としてドライバディスクイメージを /var/tmp/TL8 に格納した場合を説明します。フォーマット済みのフロッピィディスクをフロッピィディスクドライブにセットし、以下のコマンドを実行します。

```
# dd if=/var/tmp/TL8/dd031201.img of=/dev/fd0 bs=1440k count=1
```

- Windows または DOS での作成方法

インストール CD の dosutils ディレクトリに収録されている rawrite または rawritewin プログラムを使用します。

例として展開したドライバディスクイメージファイルを c:¥TL8 に格納した場合の手順を示します。フォーマット済みのフロッピィディスクをフロッピィディスクドライブにセットし、以下のコマンドを実行します。

[ rawrite の場合]

```
C> rawrite -f c:¥TL8¥dd031201.img -d a
```

[ rawritewin の場合]

```
C> rawritewin
```

GUI が表示されるので、c:¥TL8¥ dd031201.img を選択し、"Write" ボタンをクリックします。

"Image successfully written." が表示されれば終了です。

フロッピィディスクを取り出してください。

### 3 ドライバの組み込み

以下の手順でドライバの組み込みをしてください。

順序	
1	システムインストール先デバイスで使用するドライバ選択 (“ <a href="#">3.1</a> ”参照)
2	システムインストール先以外の SCSI ドライバの選択 (“ <a href="#">3.2</a> ”参照)
3	LAN ドライバの選択 (“ <a href="#">3.3</a> ”参照)
4	システムのインストールについてへ

#### 3.1 システムインストール先デバイスドライバ選択

以下の操作を行ってください。

- (1) インストール CD から起動し、以下のように入力してインストールを開始します。

```
boot: install  noprobe  dd
```

- (2) 以下のメッセージが表示されるので、「Yes」を選択します。

Do you have a driver disk ?

- (3) 以下のメッセージが表示されるので、“[2.1](#)”で作成したドライバディスクをフロッピィディスクドライブに挿入し「OK」を選択します。

Insert your driver disk and  
press “OK” to continue.

- (4) Choose a Language 画面で「Japanese」を選択し「OK」を選択します。

- (5) デバイス画面で「デバイスの追加」を選択します。

- (6) 「追加するデバイスを選択して下さい。」で「SCSI」を選択し「OK」を選択します。

- (7) ドライバー一覧が表示されるので、システムをインストールするデバイスで使用するドライバを選択し「OK」を選択します。選択するドライバは下表を参考にしてください。

システムインストール先	選択するドライバ
オンボード SCSI	Adaptec AHA-2740, 28xx, 29xx, 39xx (aic79xx)
RAID カード(PG-140C)	Adaptec I2O RAID (dpt_i2o)

- (8) デバイス画面が表示されるので、「デバイスの追加」を選択します。

### 3.2 システムインストール先以外の SCSI ドライバ選択

システムインストール先以外のデバイスを使用する場合は以下の操作を行ってください。システムインストール先以外のデバイスを使用しない場合は、「[3.3 LAN ドライバの選択](#)」の操作を行ってください。

- (1) ドライバー一覧が表示されるので、使用するデバイスのドライバを選択し「OK」を選択します。選択するドライバは下表を参考にしてください。

使用デバイス	選択するドライバ
オンボード SCSI	Adaptec AIC79xx Ultla320 adapter (aic79xx)
RAID カード(PG-142B)	Adaptec I2O RAID (dpt_i2o)
SCSI カード(PG-128)	Adaptec AHA-2740, 28xx, 29xx, 39xx (aic7xxx)

- (2) デバイス画面が表示されるので、「デバイスの追加」を選択します。

### 3.3 LAN ドライバの選択

以下の操作を行ってください。

- (1) 「追加するデバイスを選択して下さい。」で「ネットワーク」を選択し、「OK」を選択します。
- (2) ドライバー一覧が表示されるので、以下のオンボード LAN 用ドライバを選択し「OK」を選択します。

機種	使用ドライバ
TX200	Broadcom NetXtreme BCM570x Gigabit Ethernet adapter(bcm5700)

LAN カードが搭載されている場合は、その LAN カードのドライバも選択してください。

LAN カード	使用ドライバ
PG-1851	Intel Pro/100 10/100 Mbit Ethernet Driver (e100)
PG-1881	Intel EtherExpress/1000 gigabit(e1000)
PG-1891	

- (3) デバイス画面が表示されるので、「終了」を選択します。

## 4 システムのインストールについて

インストールを行う場合には、添付資料“[Turbolinux 8 Server インストール手順](#)”を参考に実施してください。資料では、PRIMERGY に弊社が動作確認を実施した環境と同じパッケージをインストールする方法を示しています。

## 5 カーネルのアップデートについて

再起動完了後、カーネルのアップデートが必要となります。以下の手順でカーネルをアップデートしてください。

アップデートファイルは、ターボリナックス株式会社の Web ページ(以下の FTP サイト)からダウンロードして入手してください。

[FTP サイト]

ftp://ftp.turbolinux.co.jp/pub/TurboLinux/TurboLinux/ia32/Server/8/updates/Vender/Fujitsu/RPMS/

以下の手順は、CD-ROM にアップデートファイルを格納した場合の操作を記述します。

- (1) アップデートファイルの格納された CD-ROM をセットしてください。

```
# mount /dev/cdrom
```

- (2) 以下の操作によりカーネルをインストールしてください。

```
# cd /mnt/cdrom
# rpm -Fvh kernel-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-BOOT-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-doc-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-headers-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-pcmcia-cs-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-smp-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-smp64G-2.4.18-8.i586.rpm \
  kernel-source-2.4.18-8.i586.rpm
```

“¥”は継続行を意味します。入力は不要です。

- (3) CD-ROM を取り出します。

```
# cd /
# umount /dev/cdrom
# eject
```

## 6 環境設定

カーネルアップ後、以下の手順で環境設定をしてください。

- (1) オンボード SCSI ドライバをアップデートします。

“[2.1](#)”で作成したドライバディスクをフロッピィディスクドライブに挿入してください。

```
# mount /dev/fd0 /mnt/floppy
# cd /mnt/floppy
# ./update.sh
# cd
# umount /mnt/floppy
```

ドライバディスクを取り出してください。

- (2) オンボード LAN ドライバをアップデートします。

“[2.2](#)”で作成したドライバディスクをフロッピィディスクドライブに挿入してください。

```
# mount /dev/fd0 /mnt/floppy
# cd /mnt/floppy
# ./update.sh
# cd
# umount /mnt/floppy
# gilo
# shutdown -r now
```

## 添付資料 TX200 用 LAN ドライバアップデート手順

ドライバディスクを使用して、オンボード LAN ドライバのアップデートが必要となります。

### (1) オンボード LAN ドライバディスクを作成します。

ターボリナックス株式会社ホームページのベンダーマシン専用アップデート(富士通)より他マシンでドライバディスクのイメージファイルをダウンロードします。ドライバディスクイメージとフォーマット済みのフロッピィディスクを用意し、以下のコマンドを実行します。

#### [FTP サイト]

<ftp://ftp.turbolinux.co.jp/pub/TurboLinux/TurboLinux/ia32/Server/8/updates/Vender/Fujitsu/images/dd/>

#### [イメージファイル名]

dd031201.img

##### - Linux システムでの作成方法

例としてドライバディスクイメージを /var/tmp/TL8 に格納した場合を説明します。フォーマット済みのフロッピィディスクをフロッピィディスクドライブにセットし、以下のコマンドを実行します。

```
# dd if=/var/tmp/TL8/dd031201.img of=/dev/fd0 bs=1440k count=1
```

##### - Windows または DOS での作成方法

インストール CD の dosutils ディレクトリに収録されている rawrite または rawrwritein プログラムを使用します。

例として展開したドライバディスクイメージファイルを c:¥TL8¥dd031201.img に格納した場合の手順を示します。フォーマット済みのフロッピィディスクをフロッピィディスクドライブにセットし、以下のコマンドを実行します。

#### [ rawrite の場合]

```
C> rawrite -f c:¥TL8¥dd031201.img -d a
```

#### [ rawrwritein の場合]

```
C> rawrwritein
```

GUI が表示されるので、c:¥TL8¥ dd031201.img を選択し、"Write" ボタンをクリックします。

"Image successfully written." が表示されれば終了です。

フロッピィディスクを取り出してください。

### (2) オンボード LAN ドライバをアップデートします。

(1) で作成したドライバディスクをフロッピィディスクドライブに挿入してください。

```
# mount /dev/fd0 /mnt/floppy
# cd /mnt/floppy
# ./update.sh
# cd
# umount /mnt/floppy
# gilo
# shutdown -r now
```

ドライバディスクを取り出してください。

## 添付資料 Turbolinux 8 Server インストール手順

PRIMERGY に、弊社が動作確認を実施した環境と同じパッケージをインストールする手順を以下に示します。以下はグラフィカルなインストールプログラムを起動した時点からの手順になります。

### 1. インストールクラス選択

『標準インストール』が選択されていることを確認し、[次] をクリックしてください。

### 2. キーボードの設定

ここでは使用するキーボードを選択します。

現在使用しているキーボードに最も適したモデルを選択してください。

同一タイプのキーボードが一覧にない場合は、最も近い Generic タイプを選択してください。  
選択後、[次] をクリックしてください。

### 3. マウスの設定

ここでは使用するマウスを選択します。現在使用しているマウスに最も適したモデルを選択してください。

選択後、[次] をクリックしてください。

### 4. インストール先設定

ここではハードディスクドライブのパーティションの設定方法を選択します。

『TFDisk』を選択してください。

選択後、[次] をクリックしてください。

### 5. TFDisk(パーティション設定)

ここではハードディスクドライブのパーティションを設定します。

ディスクドライブのパーティションを以下のように設定してください。

デバイス ( 1 )	容量	タイプ	マウントポイント
/dev/sda1	約 256 MB	ext2	/boot
/dev/sda2	約 4096 MB	ext2	/
/dev/sda3	約 512 MB	swap	-

1: デバイスは、PRIMERGY に搭載しているハードディスクのタイプにより異なります。  
空きは、お客様の必要に応じてパーティションやマウントポイントを設定してお使いください。なお、インストール後に設定することも可能です。

## 6. ブートローダの設定

ここではブートローダを選択します。(弊社は、以下の設定で動作確認を行っています。)

以下の選択がされていることを確認する。選択されていない場合はマウスを使用してチェックしてください。(簡易設定)

- ・“ブートディスクを作成する”
- ・“ブートローダをインストールする”
- ・ブートローダをインストールする場所  
“/dev/sda マスタブートレコード(MBR)“を選択します。

(詳細設定)

- ・“ブートローダに GRUB を設定する”
- ・“GRUB のブートに root のパスワードを使う”

(L100E/TX150(IDE-RAID タイプ)/RX100 の場合)

- ・カーネルパラメーターを以下のように設定します。

```
ide0=0x1f0,0x3f6,14 ide1=0x170,0x376,15 ide2=0 ide3=0 ide4=0 ide5=0 ide6=0 ide7=0 ¥  
ide8=0 ide9=0
```

“¥“は継続行を意味します。入力は不要です。

選択後、[次] をクリックしてください。

## 7. ネットワークの設定

ここではネットワークの設定を行います。

お客様の環境に合わせたネットワーク設定を行ってください。

入力後、[次] をクリックしてください。

## 8. 時間帯設定

ここではタイムゾーンを設定します。

『Asia/TOKyo』が選択されていることを確認して、[次] をクリックしてください。

## 9. アカウント設定

ここでは root(管理者)のパスワードの設定などを行います。

簡易設定

ここではシステムの root(管理者)のパスワードを設定します。(必須)

ユーザー作成

必要に応じて root(管理者)以外のユーザーアカウントを設定します。

認証設定

ここでは認証の設定を行います。必要に応じて設定を行います。

(弊社は、デフォルトの設定で動作確認を行っています。)

設定後、[次] をクリックしてください。

## 10. インストールタイプ選択

ここではパッケージグループを選択します。以下の手順でパッケージを選択してください。誤って下記以外の手順により設定を行ってしまった場合は、一旦「戻る」をクリックし、「アカウント設定」画面に戻った後、再度やり直してください。

- (1) 「標準選択」タブで、「インターネットサーバ」が選択されていることを確認し、「カスタム選択」タブをクリックします。
- (2) 以下の「グループ」のチェックボックスをチェックし、グループ配下の全パッケージを選択します。
  - ・「追加システムユーティリティ」
  - ・「拡張ネットワーク」
  - ・「追加ネットワーククライアント」
  - ・「SMB サポート」
  - ・「DHCP サポート」
  - ・「NIS/NFS サポート」
  - ・「SNMP サポート」
  - ・「NTP サポート」
  - ・「バックアップサポート」
  - ・「LDAP サポート」
  - ・「追加 X Window システム」
  - ・「追加 X Window アプリケーション」

すでにチェックボックスにチェックがされていますが、パッケージを全選択するため再度チェックしてください。

- (3) 以下の「グループ」の文字部分をクリックし、パッケージ一覧より個別にパッケージをチェックし選択します。
  - ・「その他のサポート」グループの「tux」
  - ・「X Window フォント」グループの「XFree86-unicode-fonts」
  - ・「X Window アプリケーション」グループの「XFree86-contrib」
  - ・「開発ツール」グループの「automake」, 「expect」, 「rpm-build」, 「texinfo」
  - ・「追加開発ツール」グループの「strace」
  - ・「拡張開発ツール」グループの「python-tools」

- (4) 「各種設定」タブをクリックし、「カーネルの選択」でカーネルを選択します。選択するカーネルは、ハードの条件により以下のようになります。

ハード条件	選択カーネル
論理 CPU が 1 個 かつ、 搭載メモリが 4GB 以内の場合	標準カーネル
論理 CPU が 2 個以上 かつ、 搭載メモリが 4GB 以内の場合 1	SMP カーネル
論理 CPU の数に関係なく、 搭載メモリが 4GB を超えている場合	SMP カーネル (64G メモリー対応)

1 : 実搭載 CPU1 個でも、Hyper Threading = Enable で論理 CPU が 2 個に見える場合は、  
こちらを選択してください。

選択後、[次] をクリックしてください。

## 11. モニタの設定

ここではモニタの選択を行います。  
自動的に検出したモニタが選択されます。  
お客様の使用しているモニタが選択されていることを確認してください。  
[次] をクリックしてください。

## 12. X の設定

ここではビデオカードを設定します。  
インストーラが検出したビデオカードが選択されているため、特に変更の必要性はありません。  
[次] をクリックしてください。

## 13. インストールの準備ができました。

[次]をクリックすると、インストール開始確認画面が表示されます。  
ここで[OK]をクリックするとハードディスクへの書き込みが始まります。

[OK]をクリックするまで、前に戻って設定を変更することや、インストールを中止することができます。  
[OK]をクリックすると、ハードディスクへの書き込みが行なわれるため、インストール前の状態には戻りません。  
ここで、インストールプロセスをキャンセルするには、コンピュータのリセットボタンを押すか、又は、[Ctrl]+[Alt]+[Del] のキーを同時に押してマシンを再起動します。

弊社が動作確認したパッケージをインストールするには、インストール CD2 が必要になります。  
画面の指示にしたがって、インストール CD をセットしてください。

完了するまで、しばらく待ちます。

#### 14. 追加パッケージのインストール

ここではインストールし忘れた追加パッケージのインストールを行います。

特に、パッケージの追加が必要ない場合は、「追加パッケージのインストールをスキップする」をチェックされていることを確認し、[次] をクリックしてください。

#### 15. セキュリティレベル

ここではセキュリティレベルの選択を行います。

「中レベル」に変更してください。(弊社が動作確認した設定です。)

[次] をクリックしてください。

#### 16. ブートディスクの作成

ここではブートディスクの作成を行います。

空のフォーマット済のフロッピィディスクをフロッピィディスクドライブに挿入します。

[次] をクリックしてください。しばらく待つと起動ディスクが作成されます。

作成された起動ディスクを取り出し、[次] をクリックしてください。

#### 17. インストール完了

以上で、Turbolinux 8 Server のインストールが完了です。

[完了] をクリックするか [Return] キーを押すと、インストール CD がイジェクトされ、システムを再起動するかの確認があります。[Return] キーを押してください。

以上

## 添付資料 パッケージモジュール一覧

Bastille-1.3.0-1	antlr-2.7.1-3
Bastille-Chooser-1.3.0-1	antlr-manual-2.7.1-3
Bastille-Curses-module-1.3.0-1	apache-1.3.26-7
Bastille-Tk-module-1.3.0-1	apmd-3.0final-15
CF-3.7Wpl2-13	arts-2.2.2-11
Canna-3.5b2-41	at-3.1.8-11
ImageMagick-5.4.7-1	audiofile-0.2.3-3
MAKEDEV-3.1.0-8	aumix-2.7-7
MigrationTools-27-2	auth_ldap-1.6.0-2
MySQL-3.23.52-2	authconfig-4.2.1-2
MySQL-shared-3.23.52-2	autofs-3.1.7-3
ORBit-0.5.13-2	automake-1.4-14
Omni-0.7.0-2	bash-2.05b-1
SysVinit-2.84-2	bash-static-2.05b-1
VFlib-2.25.1-19	bc-1.06-6
VFlib-utils-2.25.1-19	bdflush-1.6.2-6
XFree86-100dpi-fonts-4.2.0-18	biff-0.17-20
XFree86-4.2.0-18	bind-9.2.1-3
XFree86-75dpi-fonts-4.2.0-18	bind-utils-9.2.1-3
XFree86-contrib-4.2.0-18	binutils-2.12.90.0.7-2
XFree86-japanese-fonts-1.0.3-7	bsdwhois-8.1-4
XFree86-libs-4.2.0-18	bzip2-1.0.2-1
XFree86-unicode-fonts-0.4.0-1	caching-nameserver-7.0-3
XFree86-xfs-4.2.0-18	cdparanoia-III-9.8-1
Xaw3d-1.5-9	cdrtools-1.10-5
Zope-2.5.1-6	chkconfig-1.3.5-1
Zope-JapanesePatch-2.5.1-6	cmpskit-3-4
Zope-zserver-2.5.1-6	cocoon-2.0.2-4
a2ps-4.13-5	console-tools-19990829-5
adjtimex-1.12-2	cpio-2.4.2-19
alien-7.24-2	cracklib-2.7-10
alsa-lib-0.5.10b-9	cracklib-dicts-2.7-10
alsa-utils-0.5.10-5	cramfs-1.1-1
alsaconf-0.4.3b-10	crontabs-1.10-2
amanda-2.4.2-5	ctags-5.2.3-1
amanda-client-2.4.2-5	cups-1.1.15-5
amanda-server-2.4.2-5	cups-libs-1.1.15-5
analog-5.22-2	cups-pstoraster-1.1.15-5
ant-1.4.1-3	curl-7.9.4-1
ant-manual-1.4.1-3	cyrus-sasl-1.5.27-3

db1-1.85-27	gdbm-1.8.0-8
db2-2.4.14-8	gdk-pixbuf-0.11.0-2
db3-3.1.17-8	gdm-2.2.0-7
db3-utils-3.1.17-8	gettext-0.10.40-2
dev-3.1.0-8	ghostscript-6.51-13
dhcp-3.0pl1-3	ghostscript-fonts-6.0-2
dhcp-client-3.0pl1-3	gif2png-2.4.2-2
dialog-0.9a-4	glib-1.2.10-4
diffutils-2.8.1-1	glib2-2.0.4-1
distribution-X-TL8W-3	glibc-2.2.5-13
distribution-release-TLS8.0-2002092611jaJP	glut-3.7-4
distro-0.1-14	gmp-3.1.1-4
dosfstools-2.8-3	gnewt-0.06-8
dump-0.4b27-1	gnome-libs-1.4.1.5-4
e2fsprogs-1.27-1	gnupg-1.0.6-4
ed-0.2-19	gnuplot-3.7.1-8
eject-2.0.9-2	gpm-1.19.6-3
enscript-1.6.1-12	grep-2.4.2-10
eruby-0.9.7-1	groff-1.17.2-2
esCPF-0.4-2	groff-gxditview-1.17.2-2
esound-0.2.28-3	groff-perl-1.17.2-2
etcskel-6.1-17	grub-0.92-4
evms-1.1.0-3	gtk+-1.2.10-16
expat-1.95.2-2	gtk-engines-0.12-3
expect-5.32-10	gv-3.5.8-11jaJP
extfile-0.1-6	gzip-1.3.2-2
fdutils-5.4-7	hdparm-5.2-2
fetchmail-5.9.13-1	hexedit-1.1.1-2
fetchmailconf-5.9.13-1	hpijs-1.0.2-2
file-3.37-2	htdig-3.2.0b4-3
filesystem-2.0.10-5	hwdetect-0.27-7
fileutils-4.1.10-3	iiimf-1.2-14
findutils-4.1.7-2	iiimf-xiimp-1.2-14
finger-0.17-20	iiimf_conv-1.2-14
fnlib-0.5-4	im-140-3
foomatic-2.0.0-1	imap-2002.RC2-4
freeswan-1.98b-4	imlib-1.9.13-8
freetype-1.3.1-4	indexhtml-en-7.0-3
freetype2-2.0.9-2	indexhtml-ja-7.0-3
fscfg-1.2-20	info-4.2-1
ftp-0.17-20	initscripts-7.5.0-9
gawk-3.1.0-1	ip-tools-0.1-3

ipchains-1.3.9-11  
iplog-2.1.1-5  
iptables-1.2.5-2  
iptables-ipv6-1.2.5-2  
iutils-20001110-4  
iutils-ipv6-20001110-4  
ipv6calc-0.34-1  
irda-utils-0.9.14-7  
itcl-3.2-10  
jfsutils-1.0.20-1  
junit-3.7-3  
junit-manual-3.7-3  
kcc-2.3-5  
kde-i18n-Japanese-2.2.2-6  
kdeadmin-2.2.2-3  
kdebase-2.2.2-10  
kdedistro-2.2.2-7  
kdelibs-2.2.2-11  
kdenetwork-2.2.2-5  
kdeutils-2.2.2-3  
kernel-2.4.18-8  
kernel-pcmcia-cs-2.4.18-8  
kernel-smp64G-2.4.18-8 (\*1)  
kernel-utils-2.4-5  
kinput2-3.0-8  
kochi-fonts-ja-0.2.20020326-2  
kparam-1-7  
ksconfig-1.2-2002062408  
kterm-6.2.0-26  
kudzu-0.99.40-9  
lang-extra-2.0-10  
launch\_xdm-1-3  
lcms-1.08-3  
less-358-5  
lesstif-0.93.18-1  
lesstif-clients-0.93.18-1  
lesstif-mwm-0.93.18-1  
lftp-2.6.1-1  
libaio-0.3.15-1  
libautocontrol-1.0-7  
libcap-1.92-4  
libgd-2.0.1-2  
libglade-0.17-6  
libjpeg-6b-15  
libmng-1.0.3-2  
libogg-1.0-1  
libpng-1.2.4-1  
libstdc++-2.96-9  
libstdc++-compat-2.10.0-3  
libtiff-3.5.7-2  
libtool-1.3.5-5  
libturboconsole-0.6.7-7  
libturbolinux-0.6.7-7  
libungif-4.1.0b1-6  
libungif-progs-4.1.0b1-6  
libuser-0.51.1-1  
libvorbis-1.0-1  
libxml-1.8.17-2  
libxml2-2.4.22-1  
libxslt-1.0.18-1  
lilo-22.2-14  
lm\_sensors-2.6.4-1  
logcheck-1.1.1-4  
logrotate-3.3.2-5  
lrssz-0.12.20-6  
lsb-release-1.4-2  
lsb-runtime-2.2.90-1  
lsb-skeleton-1.2-2  
lvm-1.0.4-1  
lynx-2.8.4-2  
m4-1.4-17  
mailcap-2.0.2-3  
mailx-8.1.1-14  
make-3.79.1-7  
man-1.5i2-6  
man-pages-1.38-3  
man-pages-ja-20020715-1  
mc-4.5.54-6  
metamail-2.7-27  
mew-2.2-1  
mgetty-1.1.22-8  
mgetty-sendfax-1.1.22-8  
ming-0.2a-3  
mingetty-1.00-1

minicom-1.83.1-7	ntsysv-1.3.5-1
mirror-2.9-9	openldap-2.0.25-1
mkbootdisk-1.2t-2	openldap-libs-2.0.25-1
mkinitrd-3.0.9-11	openldap-servers-2.0.25-1
mkisofs-1.10-5	openssh-3.4p1-12
mktemp-1.5-6	openssh-askpass-3.4p1-12
mkxauth-1.7-16	openssh-clients-3.4p1-12
mlterm-2.5.0-2	openssh-server-3.4p1-12
mod_bandwidth-2.0.3-4	openssl-0.9.6g-2
mod_dav-1.0.3-1	oro-2.0.1-1
mod_jk-1.3-1.0-6	oro-manual-2.0.1-1
mod_perl-1.26-3	pam-0.75-4
mod_python-2.7.8-1	pam_ldap-148-1
mod_ruby-0.9.7-3	pam_smb-1.1.6-4
mod_ssl-2.8.10-7	parted-1.4.24-2
mod_throttle-312-3	passwd-0.67.3-1
modutils-2.4.16-1	password-1.0-6
mongoose-2.0-2002092614	patch-2.5.4-6
mozilla-1.1-4	pax-3.0-1
mpage-2.4-10jaJP	pciutils-2.1.10-2
mt-st-0.6-6	pcre-3.7-1
mtools-3.9.8-2	pdksh-5.2.14-4
mtx-1.2.16-1	perl-5.6.1-5
murasaki-0.6.1-2	perl-Authen-PAM-0.12-2
ncompress-4.2.4-21	perl-Curses-1.06-1
ncurses-5.2-9	perl-DateManip-5.40-2
net-snmp-5.0.3-2	perl-Gtk-Perl-0.7000-5
net-snmp-utils-5.0.3-2	perl-HTML-Parser-3.25-2
net-tools-1.60-5	perl-HTML-Tagset-3.03-2
netcfg-1.6.9-5	perl-MD5-1.7-10
netcfg-nfsexports-1.6.9-5	perl-MIME-Base64-2.12-2
netcfg-ppp-1.6.9-5	perl-Net-SSLeay-1.08-1
netcfg-routing-1.6.9-5	perl-Parse-Yapp-1.05-2
netpbm-9.25-2	perl-Storable-1.0.14-2
netpbm-progs-9.25-2	perl-Tk-800.023-1
newt-0.50.34-5	perl-XML-Dumper-0.4-1
nfs-utils-0.3.1-4	perl-XML-Encoding-1.01-1
nkf-1.92-7	perl-XML-Grove-0.46alpha-1
nmap-3.00-1	perl-XML-Parser-2.30-4
nsqd-2.2.5-13	perl-XML-Twig-2.02-1
nss_ldap-172-1	perl-gettext-1.01-7
ntalk-0.17-20	perl-libnet-1.0703-3

perl-libwww-5.53-2	rootfiles-6.1-17
perl-libxml-enno-1.02-2	rp-pppoe-3.2-3
perl-libxml-perl-0.07-1	rp-pppoe-gui-3.2-3
php-4.2.3-3	rpm-4.0.2-19
php-gd-4.2.3-3	rpm-build-4.0.2-19
php-imap-4.2.3-3	rsh-0.17-20
php-ldap-4.2.3-3	rsync-2.5.5-1
php-ming-4.2.3-3	ruby-1.6.4-2
php-mysql-4.2.3-3	rxvt-2.7.6-15
php-pgsql-4.2.3-3	sablotron-0.82-2
pidentd-3.0.12-5	samba-2.2.4-3jaJP
pnm2ppa-1.04-2	screen-3.9.9-2
popt-1.6.2-19	scsitools-0.3-2
portmap-4.0-26	scsitools-tk-0.3-2
postgresql-libs-7.2.2-1	sed-3.02-10
ppp-2.4.1-2	sendmail-8.12.6-1
prn-2.3-8	sendmail-cf-8.12.6-1
procinfo-18-2	servletapi4-4.0.3-3
procmail-3.22-1	servletapi4-javadoc-4.0.3-3
procps-2.0.6-13	setconsole-1.0-11
proftpd-1.2.5-5	setserial-2.17-6
psacct-6.3-15	setup-6.0-18
psmisc-20.2-2	sfdisk-3.07-8
psutils-p17-6	sh-utils-2.0.11-1
pth-1.3.7-4	shadow-utils-20000902-1
pwdb-0.61-5	sharutils-4.2.1-9
pxe-0.1-2	slang-1.4.4-3
pygname-1.4.2-1	slocate-2.3-4
pygtk-0.6.9-1	smbfs-2.2.4-3jaJP
python-2.2.1-3	squid-2.4.STABLE6-6
python-tools-2.2.1-3	statserial-1.1-16
pythonlib-1.23-3	strace-4.2-9
qt-2.3.1-21	sudo-1.6.6-3
qt-support-2.3.0-2	symlinks-1.2-8
quota-3.01-5	sysklogd-1.4-4
raidtools-0.90-10	syslinux-1.75-2
readline-4.2a-1	sysstat-4.0.6-1
regexp-1.2-3	tar-1.13.17-6
regexp-manual-1.2-3	tboot-1.2.3-19
reiserfsprogs-3.6.2-1	tcl-8.3.3-10
ricoh-gothic-1.1-3	tclx-8.3-10
rmt-0.4b27-1	tcp_wrappers-7.6-18

tcpdump-3.6.2-4  
tcsh-6.10-9  
telnet-0.17-20  
termcap-11.0.1-5  
texinfo-4.2-1  
textutils-2.0.21-1  
tftp-0.28-1  
tftp-server-0.28-1  
time-1.7-14  
tix-8.1.1-10  
tk-8.3.3-10  
tkinter-2.2.1-3  
tmpwatch-2.6.2-3  
tomcat4-4.0.4-2  
tomcat4-webapps-4.0.4-2  
tprobe-1.6.1-3  
traceroute-1.4a12-2  
transfig-3.2.1-7  
tree-1.3-4  
ttyrec-1.0.5-1  
tux-2.2.7-2  
twig-2.7.3-1  
unarj-2.43-6  
unicon-3.0.4-17  
unicon-mini-1.0-8  
unicon-utils-3.0.4-17  
unixODBC-2.2.0-1  
unzip-5.50-1  
urw-fonts-1.1-14  
usbprobe-0.1-5  
usercfg-1.3.0-6  
usermode-1.42-5  
utempter-0.5-3  
util-linux-2.11n-4  
vim-6.1-5  
vixie-cron-3.0.1-50  
vlock-1.3-7  
w3c-libwww-5.3.2-4  
w3c-libwww-apps-5.3.2-4  
w3m-0.3-1  
webalizer-2.01.06-2  
webmin-0.970-10  
wget-1.8.2-1  
which-2.12-2  
wmanagercfg-2.1.7-9  
words-2-18  
x3270-3.2.17-3  
xalan-j-2.1.0-3  
xalan-j-manual-2.1.0-3  
xbanner-1.31-10  
xchat-1.8.7-1  
xerces-j-1.4.4-4  
xerces-j-demo-1.4.4-4  
xerces-j-javadoc-1.4.4-4  
xerces-j-manual-1.4.4-4  
xfce-3.8.16-2  
xfsprogs-2.0.6-1  
xinetd-2.3.7-1  
xinitrc-6.0-31  
xloadimage-4.1-18  
xntp3-5.93-15  
xntp3-server-5.93-15  
xosview-1.8.0-2  
xpdf-1.00-1  
xscreensaver-3.33-2  
xsri-1.0-6  
yp-tools-2.4-9  
ypbind-3.3-29  
ypserv-1.3.11-8  
zabom-1.8.19-summer2002  
zip-2.3-3  
zlib-1.1.4-2  
zsh-4.0.4-1

\*1) 最大搭載可能メモリが 4GB を超えるマシン  
の場合、インストールされています。